

平成21年8月台風9号による 兵庫県佐用町災害調査報告



危機管理技術研究センター 水害研究室 研究官 大谷 周

(キーワード) 河川災害、避難

1. はじめに

兵庫県佐用町では2009年8月9日から発生した豪雨により、死者・行方不明者20名を生じるとともに家屋等に甚大な被害が生じた。これに関し、国総研では被害状況や水害対策の課題の把握を目的として8月14日、9月18日に現地調査及び聞き取り調査を行った。今回の調査は兵庫県西播地区を流れる二級水系千種川の支川佐用川沿川の久崎、佐用、本郷の3地区を対象とした。



図－1 調査対象区域

2. 被害状況

破堤被害のあった久崎地区では、浸水深1.8m程度が確認できた。また家屋流失が確認され、氾濫流による被害が甚大であったことが分かった。佐用地区は、地区の中心部である東岸側の被害が大きく、浸水深は1.0m～1.6m程度であり町役場、駅、駅前の商店街の店舗等が被災している。本郷地区では、浸水深は70cm程度で、越水氾濫による氾濫流の流れ込み、付近一帯が浸

水した様子が確認できた。



図－2 久崎地区破堤箇所近傍の家屋

3. 防災体制

佐用町を対象としたヒアリング調査からは、水位計の無い本郷地区での氾濫状況が把握出来ず、避難勧告等の適切な指示を出せなかったこと、また、幕山住宅で自主避難を行った9名が避難途中に流されるといった重要な情報や、水害に係る情報の詳細がつかめていなかったことが分かった。さらに役場の浸水により配電盤が故障、停電し、電話、防災無線は使用できるものの自動防災情報システムからの水位情報等は入らない状態になっており、自動防災情報システムの利便性に伴う危険性が明らかになった。

4. 今後の課題

今回の現地調査及び聞き取り調査から、降雨流出の早い谷底平野における洪水監視や防災体制のあり方の検討や、住民の生命の安全を確保するため、「事前の避難」だけでなく、建物の安全を前提とした上で、自宅の二階など水が浸からない階数以上に「緊急避難」といった避難行動基準を示す情報提供が必要であることが明らかとなった。

<http://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/top.html>

(水害研究室HP)